

はくあい

No.33

2011. January

社会福祉法人
京都博愛会



11月13日開催の健康講演会でstepプラス体操をする参加者

医療の前線

●「最近の精神医療」

わが町のホームドクター

●「懐かしいところ」

上田 真而子 様



講師:青山朋樹先生(京都大学大学院准教授)



はくあい健康まつり模擬店の賑わい



健康相談コーナー風景

「新年を迎えて」

京都博愛会病院院長 金 盛彦

あけましておめでとうございます。皆さんは健やかな新年を迎えられたことと思います。年末年始にも業務のため出勤された職員の皆さんほんとうにご苦労さまでした。

昨年をふりかえりますと、国の内外でさまざまな出来事が起こりましたが、先の見えない不安なニュースが目立ちました。今年こそ明るい希望に満ちた年になることを願うばかりです。

京都博愛会病院では懸案であった回復期リハビリテーション病棟が、全面的な開設から2年が経とうとしています。連携パスの整備や365日体制など課題はまだありますが、リハビリ部門はこれからの需要が高まると考えられ、さらなる拡充のため努力しているところです。精神科では高齢化の進行に伴って増加している認知症や身体合併症の治療にも積極的に取り組んでいます。地区医師会のネットワークにも参加し、地域により密着した精神科医療体制を目指しています。また、院内では昨年新しく増築したB病棟以外の建物の老朽化が目立つようになりました。かつては新館と呼ばれたA棟も竣工後すでに25年が経過し、屋上の補修や病室内壁の張り替え工事が必要となりました。C棟及び精神科病棟はさらに老朽化が激しく、いずれ抜本的な解決策を検討しなければならぬ時期にきています。医療機器ではCTの更新時期が来ており、より高性能のマルチスライスCTの導入が決定されました。将来の院内IT化についても検討する必要があります。医療安全、院内感染などにもさらに力を入れて対策を講ずるべきです。今年もいろいろな解決すべき課題が山積していますが、積極的に取り組んでゆきたいと思います。

急速に進む少子高齢化社会のなかで京都博愛会も現状維持の姿勢でいることは許されません。地域のニーズに応え、地域に根ざした医療、介護、福祉活動を目指して変革し発展しなければなりません。今年も「博愛・協調・健康」の基本理念のもとに富田病院をはじめ関連施設とともに、いつも信頼し安心していただける病院であるよう心がけたいと思います。

今年が京都博愛会にとって飛躍の年になり、皆さんにとっても実り多い年になることを祈念いたしまして新年のごあいさついたします。



基本理念

博愛 博愛の精神に基づいて、患者さまや地域の人々にやさしく、親しまれ、信頼される病院を目指します。

協調 患者さまを中心に協調の精神でチーム医療を行います。

健康 私たち自身の心と身体の健康に留意し、良い医療・介護・福祉を提供します。



わが町のホームドクター



懐かしいとろ

上田真由子

4年前、富田病院で腸閉塞の大手術を受けたあと、ナースステーションの隣にある重症患者の部屋に10日間留め置かれ、ようやく鼻からのチューブが取れて個室に移されたときに目に入った窓外の緑、あの瞬間の喜びは忘れられない。加茂街道に添って聳え立つ何本もの大木が窓いつぱいに拡がっているのだ。やがて起き上がるようになって窓辺に立つても、病室の窓から見えるのはその樹々と賀茂川の流れと向こう岸の桜並木だけ。ときどきユリカモメが飛来し、ジョギングの人が行き来する。病を養いながらそんな風景を愉しめるところが今どこにあるだろう。

そのときは重症患者の部屋で夜中にふと気がつくと、執刀してくださった先生が心配そうにのぞきこんでおられたことが2度もあった。自分ではわからなかったが、知らせをうけて駆けつけてくださったのだらう。そうして命拾いをさせていたのだのに、日頃の整腸に失敗して、今回また激痛で時間外の夕方に駆け込んでしまった。遅くまで残って待っていてくださった先生方や看護師さんに助けられて今度は切腹をまぬがれ、半月の入院で帰していただいたが、やはり痛みや熱があったあひだは辛かった。

そんなとき、ドアのノックの音がどれほどの慰めになったことか。回診の先生は無難なこと、点滴や血圧などの検査で1日に何度も訪れてくださる看護師さんとのちょっとした会話がほんとうに嬉しかった。人と人との繋がり。起きてトイレに行けるようになり、先生や看護師さんがどれほど大勢の患者をかかえて忙しくしておられるかをつぶさに見聞きしてみると、そんななかで一人ひとりに向き合ってくくださる有難さをあらためて思った。

病室では朝早く目覚める。私はすぐにカーテンを開けた。まだ暗い空を背景に、あの樹々がシルエットだけで黒々と聳え立っている。やがてそれに少しずつ緑の色がついてくると、早くもジョギングの人、犬を連れた人が行き来しはじめる。「平安朝の昔はどんな風景だっただろう」などとそこまで思いが拡がるあの景色。退院の日の朝、この風景も今日限りと思うと、もつとここにいたいような気持ち、ひとりで苦笑着ていた。



京都博愛会病院の回復期リハビリテーション病棟（以下、回リハ病棟）は開設から約2年が経とうとしています。この2年間でたくさんのお患者様、ご家族様と関わる中でチームでの取り組みの大切さを一層学ぶことができました。

回リハ病棟は、おもに脳血管疾患・大腿骨骨折など突然の疾病に襲われ、これまでの生活が難しくなられた患者様を対象に、リハビリを中心に行い、疾病前の生活により近い状態を取り戻して頂くよう支援していく病棟です。

そのために、患者様やご家族様が退院後にどのような生活のイメージを持ってもらえるかにまず耳を傾けます。そして、その思いをできる限り共有できるようにコミュニケーションに重点を置き、退院後の生活に少しでも近づけるよう努めていきます。

患者様は、疾病に罹患されると同時に治療が施されます。障害を克服するために早急にリハビリが始まります。患者様の中には突然、手足が思い通りに動かなくなってしまう方もおられます。それは、私たちに計り知れない苦悩と葛藤が

看護物語

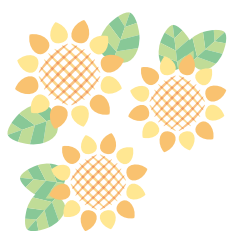
『希望という太陽に向かって』～私たちは「チームひまわり」です！～

京都博愛会病院 回復期リハビリテーション病棟 師長 袁田きよみ

あるはず。それでも患者様は、前を向いて自分を信じてリハビリを行わなくてはなりません。そんな中、私たちに問われるのはバランスの取れたチーム力です。

リハビリは毎日の訓練でできることを増やしていきます。病棟では生活に密着し、リハビリでの訓練が生かされるように支援します。MSW（医療相談員）は入院から患者様、ご家族様にマンツーマンで寄り添い、退院後の生活設計にも細やかに関わります。専任の医師はチームを統括し、リーダーシップを発揮します。他にも薬剤師、管理栄養士などがチームの一員としてそれぞれの役割を果たします。

患者様やご家族様の希望を形にいくために、チームは同じ方向を向かなくてはなりません。ひまわりが太陽に向かってように、私たちチームの一人ひとりが同じ思いで患者様やご家族様の希望と向かい合います。



医療の
前線

最近の精神医療

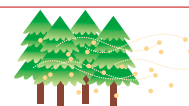
京都博愛会病院 副院長 精神科部長 佐々木 学

精神医療をめぐる最近の動向として、精神科診断の精緻化と、薬物療法の進歩があげられます。精神科領域では、客観的な診断基準がいまだに確立しておらず、診断には精神科医の主観が大きな役割を果たしています。しかし、それだけでは信頼性が向上しませんから、世界的には「こういう症状が認められたらこういう病気と分類しよう」という約束事を設けて、それに従ってとりあえず診断した上で、経過を検討して、その約束事が妥当かどうかという検証が、ずっと行われてきています。その結果、精神科医の側で、病気を構成する症状を詳細に分けることが上手になってきて、それに従って薬物療法や精神療法を柔軟に組み合わせ、一人一人の病状に合わせた治療を行う技術が向上してきています。画像診断も進歩して、当院でもMRIを導入し、認知症や器質性精神障害の診断に威力を発揮しています。薬物自体も、非定型精神病薬や、SSRIなどが登場して、以前に比べて様々な症状に効果が認められるようになり、少量、少種類で済むようになって、副作用も少なくなりました。一定間隔で注射をすれば日々の内服が不要になったり、一日一回の内服で済む薬が増えるなど、様々な生活状況に対応することが可能になってきています。

最近の精神医療をめぐるもう一つのキーワードは「連携」です。うつ病のことが広く理解されるようになり、認知症も急増して、以前より幅広い方が精神科を受診されるようになりました。それに伴って、精神科領域でも在宅で治療することがますます求められるようになり、介護保険も利用できるようになって、多様な職種との連携が必要になってきています。当院でも、個々の患者様にあった支援体制を整えることができるように、院内外を問わず関係者が集まって、カンファレンスを行っています。当院には精神疾患と身体疾患を合併した患者様も数多く入院され、各科医師が積極的に連携して、精神症状にかかわらず身体的な治療を行うことのできる体制を整えています。

*SSRI…新しい抗うつ薬の一種。

博愛会だより 「今年の花粉症対策は万全?!」 富田病院 薬剤科



花粉症の季節が近づいてきました。花粉症は草や木の花粉が原因となって起こるアレルギーで、主にくしゃみ・鼻水・鼻づまりなどの鼻症状、目の痒み・充血・涙目などの目の症状が特徴です。他にのどや皮膚の症状もあり、カゼと症状が似ているので注意が必要です。アレルギーを起こす花粉は60種類以上もあるのですが、日本人に圧倒的に多いのは『スギ花粉』です。温暖化や花粉をつける高齢スギの増加などが原因で、近年患者さんは急増し、国民の15%超とも言われています。

今年の花粉飛散予測は？

昨年夏の記録的猛暑でスギ及びヒノキ科花芽が多くでき、飛散量は一部地域を除き全国的に多いと予測されています。飛散量が少なかった2010年春に比べると、近畿地方では10倍以上!!になる所がある見込みです。

本格的シーズンの前には？

- 1 まず体を鍛えて抵抗力をつけておきましょう。日頃からジョギング、水泳などの運動をしたり、十分な睡眠も大事です。
- 2 花粉が飛び始める2週間ほど前(1月末頃)からお薬を飲んだり、目薬を点しているとシーズンになっても症状が出なかったり、軽く抑えることができます(初期療法)。
- 3 お薬の種類は主に次の3つに分類され、症状の度合、部位・用途によって使い分けれます。

■抗アレルギー薬：アレルギー症状を引き起こす物質が目や鼻に出るのを抑え、シーズン前からの服用(使用)でシーズン中の症状を軽減できます。

■抗ヒスタミン薬：大きくは抗アレルギー薬の範ちゅうですが、即効性が期待できます。反面、“眠気”や“だるさ”、“口の渇き”などの副作用に注意が必要です。

■ステロイド薬：症状が強い時に使うと非常に改善効果があります。

シーズンになったら？

処方されたお薬は、医師の指示どおりに正しく服用してください。症状がよくなる時でも過度に服用しないで、医師にご連絡ください。

花粉情報のチェック、外出時はマスク・メガネ・表面の滑らかな素材の上着の着用、帰宅時は花粉をよく払い落す、窓の開閉は必要時だけ…など、花粉を避ける努力もしてくださいネ。

なお、花粉症については、下記の診療科に早めにご相談ください。

◎京都博愛会病院

内科・眼科・耳鼻咽喉科・呼吸器科

◎富田病院

内科・眼科



栄養科では

富田病院 栄養科

皆さまの声を反映して

主に、給食管理(調理指導・食数管理・衛生管理)・栄養管理(献立作成・栄養指導)などに分かれ、その他のサービスとして諸調査を行っております。

諸調査には、嗜好調査・適時適温調査・残食調査・満足度調査などがあります。

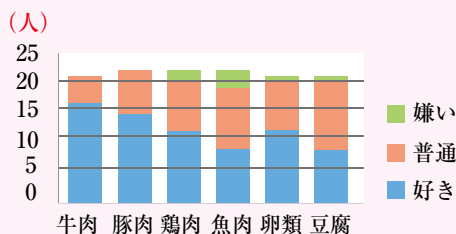
その他サービスの一環としては、一般食(塩分や糖分、カロリー制限などを伴わない食事)を召し上がっていただいている患者さまを対象に、選択メニューを実施しております。(週3回、火・木・土曜日の昼食・夕食には、2種類の主菜からお好きな方を選んで食事をしていただきます。)

さて、今回は嗜好調査について少し紹介します。

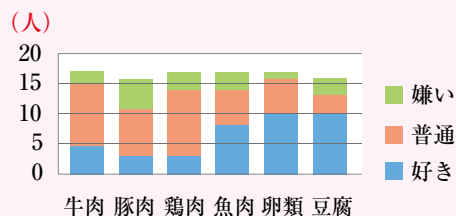
富田病院は2病棟(一般病棟)、3病棟(療養病棟)があります。グラフは調査結果の1例ですが、好みの食材についてお聞きしたところ、2病棟に対して3病棟の患者さまは、肉類よりも、素材の軟らかい魚・卵・豆腐を好まれるという結果になりました。素材の固さは、喫食量に大きく影響するため、食材の選別も重要な要素です。



2 病棟



3 病棟



また、「食べたい物」についてお聞きしたところ、お造りや寿司が食べたいという意見が多く出ます。

病院給食において、生モノの提供は難しいところがありますが、富田病院では患者さまのご要望に応えるべく栄養面、衛生面に十分注意しながら提供しております。



クラブ活動

フットサル部の活動内容ですが、月に1〜2回程度、病院周辺のフットサルコートを利用して練習もしくは他病院との練習試合を行っています。そして、色んなフットサルコートで開催される大会や、年1回開催される京都私立病院協会主催のフットサル大会にも積極的に参加しています。過去に

フットサル部

フットサルは、身体の強い接触もなく女性でもできるスポーツとして若い方を中心に人気のある競技です。サッカーとは競技面積が大きく異なり、体育館の半分ほどの広さで競技でき、スピーディーな展開が特徴です。

そんなフットサルを早くあいつフットサル部として発足し、今年で5年目となります。病院の理解と援助、参加してくれる皆さんのフットサルへの愛情がここまで続けてこられた要因だと思っています。

4回参加し、ベスト16入りが1回と、結成4年目としてはなかなかの成績を残しています。昨年11月に行われた大会でも、予選リーグを全勝、しかも失点0で1位通過を果たしています。長々とアピールしてしまいました。フットサル部は他部署との交流の場でもありますので、興味をもたれた職員は一度参加してみたいかがでしようか。



バレーボール部

毎年、暑い中で行なわれる京都私立病院協会主催の「病院対抗女子バレーボール大会」が、昨年は少し涼しくなった9月に予選大会があり、京都博愛会病院も参戦しました。



足立病院と対戦し、セットカウント2-0で勝利し、決勝トーナメントへ進出しました。10月には決勝トーナメントが行なわれ、第1試合、京都民医連中央病院と対戦し、セットカウント2-0でトナメントを勝ち上がりました。ベスト8を決定する第2試合、渡辺病院との対戦で、セットカウント2-0で敗者となりベスト16の成績で昨年の試合を終えました。試合に出場する選手も年々高齢化(笑)していきますが、今年も開催されるのなら出場し、良い成績を残せるように頑張りたいと思います。今年も応援よろしくお願いします。

京都博愛会病院

富田病院

訪問看護はくあいステーション

デイケアセンターとみた

TEL:075-781-1131 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
<http://www.kyoto-hakuikai.or.jp/hakuai/>

TEL:075-491-3241 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町56
<http://www.kyoto-hakuikai.or.jp/tomita/>

TEL:075-781-2711 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1
http://www.kyoto-hakuikai.or.jp/hakuai_nursing/

TEL:075-491-0700 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町69
http://www.kyoto-hakuikai.or.jp/tomita_care/